

バスケットボールのテーブル・オフィシャルズ技能向上へのアプローチ — ルールの理解度向上の取り組みによる効果について —

三浦 健¹⁾, 井上 愛²⁾, 木葉一総³⁾, 武田正芳⁴⁾, 元 炳善⁵⁾, 鈴木 淳⁶⁾,
中島正信⁷⁾, 八木康夫⁸⁾, 高橋仁大¹⁾, 坂中美郷¹⁾, 濱田幸二¹⁾

¹⁾鹿屋体育大学、²⁾アルビレックス新潟、³⁾神奈川大学、⁴⁾日本文理大学、
⁵⁾東海大学熊本キャンパス、⁶⁾福岡教育大学、⁷⁾久留米工業大学、⁸⁾西南女学院大学

キーワード: バスケットボール, テーブル・オフィシャルズ, ルール

【要 旨】

大学バスケットボールインカレ予選 4 試合においてテーブルオフィシャルズ(T.O.)を担当した者 14 名を対象に、1 回目の T.O.実施直後にルールの理解度の調査を実施した後、誤答について直接解説し、ルールを十分に理解させた上で翌日の T.O.を前日と同じ役割で実施してもらい、1 回目と 2 回目の T.O.のミスの回数、原因の変化を検証した。同時に T.O.に関するルールの指導の効果についてのアンケート調査を行い、指導前後の意識の変化を比較した。T.O.担当者のルールの理解度の正答率は $75.2 \pm 15.6\%$ であった。インカレ出場を決める重要な大会において、正答率 100%で T.O.に臨むべきであるが、この結果は不十分な数値だった。1 試合当たりの平均ミス回数は、指導前 3.0 ± 2.3 回から、指導後 1.0 ± 0.8 回へと減少した。ミスの要因について、指導前は、ルールの理解不足によるものが 0.8 ± 1.0 回、集中の欠如によるものが 2.3 ± 1.5 回であったが、指導後は、ルールの理解不足が 0 回、集中の欠如が 1.0 ± 0.8 回と、どちらの要因も減少した。また、指導後に実施したアンケート調査でも大部分の項目で好意的な数値を表し、今回の取り組みが T.O.担当者に対して効果的なものであったと考えられる。

スポーツパフォーマンス研究, 4, 146-160, 2012 年, 受付日: 2012 年 2 月 27 日, 受理日: 2012 年 7 月 28 日
責任著者: 三浦健 〒891-2393 鹿児島県鹿屋市白水町1鹿屋体育大学 k-miura@nifs-k.ac.jp

Reduction in basketball table officials' mistakes after guidance aimed at deepening their understanding of the rules

Ken Miura¹⁾, Megumi Inoue²⁾, Kazufusa Kiba³⁾, Masayoshi Takeda⁴⁾,
Byonson Won⁵⁾, Jun Suzuki⁶⁾, Masanobu Nakashima⁷⁾, Yasuo Yagi⁸⁾,

Hiroo Takahashi¹⁾, Misato Sakanaka¹⁾, Koji Hamada¹⁾

¹⁾National Institute of Fitness and Sports in Kanoya,

²⁾Albirex Niigata, ³⁾Kanagawa University, ⁴⁾Nihon Bunri University,

⁵⁾Tokai University Kumamoto Campus, ⁶⁾Fukuoka University of Education,

⁷⁾Kurume Institute of Technology, ⁸⁾Seinan Jo Gakuin University

Key Words: basketball, table officials, rule

[Abstract]

The present study examined the number and elements of the mistakes that basketball table officials (TO) make by analyzing the level of the officials' understanding of the rules. After 14 table officials made rulings at 4 qualifying games of an intercollegiate basketball tournament, guidance was given to deepen their understanding of the rules. The next day, the same investigation was repeated. The number and elements of their mistakes before and after the guidance were compared. As another measure of the effectiveness of the guidance on the rules, the table officials completed a questionnaire before and after receiving the guidance. The percentage of correct answers before the guidance was $75.2 \pm 15.6\%$. On important matches that decide entry to an intercollegiate basketball tournament, their answers should be 100% correct in principle, and the reality was quite unsatisfactory by comparison. After the table officials received the guidance, however, the average number of mistakes per game was reduced from 3.0 ± 2.3 to 1.0 ± 0.8 . The elements of their mistakes before the guidance were poor understanding (0.8 ± 1.0) and lack of concentration (2.3 ± 1.5). These elements were reduced to 0 and 1.0 ± 0.8 respectively after the guidance. The results from the questionnaires also suggested that the guidance may have been effective for improving the table officials' activity.

I. 諸言

バスケットボールのゲームでは、一方のチームが流れをつかむと、立て続けにポイントを決めたり、相手チームのミスを生じさせたりする傾向がある。流れをつかむ要因として、自チームの選手の好プレーや、相手チームの選手のミス等のプレー上の要因や、コーチによるタイム・アウトにおける作戦面の要因等があげられる。これらによる流れの争奪は双方のチームの関係者によるものであり、ゲームの醍醐味である。しかし、この流れを左右する要因として外的要因によるものがある。それがテーブル・オフィシャルズ(T.O.)のミスによるゲームの中断等である。

ゲームは、審判、T.O.およびコミッショナーによって進行される(日本バスケットボール協会, 2011a, p.9)。T.O.はスコアラー、アシスタント・スコアラー、タイマー、24秒オペレーターからなり、審判を補佐しながら規則に従ってゲームを公正に、また円滑に進行させるという重要な役割を担っている(阿部・木葉, 2011)(日本バスケットボール協会, 2011b)。ゲーム中何らかの形でT.O.のミスによるゲームの中断、もしくはゲームの中断はないが、ゲームに影響のあるミスが生じることで、特に僅差のゲームにおいて勝敗に大きく影響を及ぼす場合がある。

このT.O.はバスケットボール日本リーグ機構や全日本大学バスケットボール選手権大会等の競技レベルの高い全国大会等では、技能の高い者を雇い行っているが、それ以外の地方大会等では参加チームが分担しているのが現状である。その為、T.O.のミスによるゲームの中断や、ルールに従わないままゲームを進行している状況が目立つ。

T.O.に関する研究について、三浦・三浦(1998)は、中学校バスケットボール部員を対象に、競技力が高い地域と低い地域でT.O.に必要なルールの理解度に、どのような違いがあるのかについて比較している。さらに三浦(1999)は、中学校バスケットボール部員を対象に、男女別、学年別のルールの理解度の傾向について明らかにしている。また、清水(2009)は、以前のルール変更が行われた際、一般体育の授業を受講する大学生を対象に、変更されたルールがどれほど認知されているかについて明らかにしている。しかし、T.O.の技能を改善し、試合中のミスを減少させるための取り組みについての実践研究は見当たらないのが現状である。

そこで本研究では、試合中実際にT.O.を担当した者に対してルールの理解度を調査・指導を実施することによって、T.O.技能の向上を目指した取り組みを行うこととした。また、その取り組みの効果を検証することにより、今後のバスケットボール競技の大会運営方法の一助となることを目的とした。

II. 研究方法

1. 対象試合及び対象者

2011年10月22～23日、F県K市、KK大学で行われた第18回K地区大学バスケットボール1部リーグ戦(インカレ予選)の最終節4試合×2日の計8試合を対象試合とした。

対象者は、1日目の4試合において、T.O.に携わった部員14名(男子4名、女子10名)であった。担当の内訳は、スコアラー4名、タイマー4名、24秒オペレーター4名、アシスタント・スコアラー2

名であった。

なお、K地区大学バスケットボール連盟、および対象者が所属するチームには、この取り組みの趣旨を説明し、了承を得た。

2. 調査手順

対象者(T.O.担当者)への調査手順を示したものが図1である。

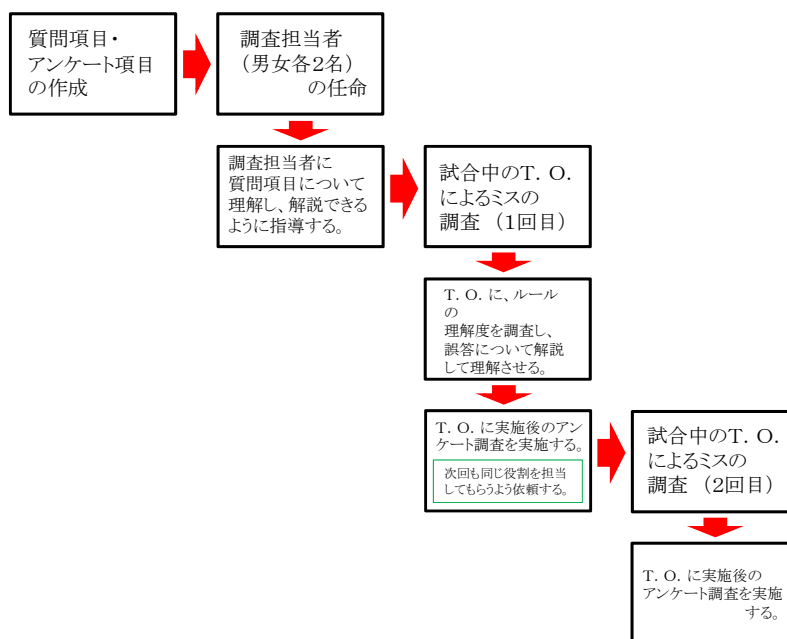


図1 テーブル・オフィシャルズへの調査手順

まず、はじめに質問項目とアンケート項目を作成した。次に調査担当者をK大学女子バスケットボール部員から、エントリー外の2名を任命した。調査担当者には、事前に対象者が行うルールの理解度調査を回答させ、誤答について解説し、調査担当者が質問項目について理解した上で、対象者に解説できるように指導した。その後、試合中にT.O.がミスをした時間、役割、内容、原因を記入するチェック表を調査担当者に配布し、実際に試合中にT.O.がミスをした場合に記入させた。試合終了後、調査担当者が対象者にルールの理解度についての質問用紙を回答させた後に回収し(約5分)、その直後に答え合わせ・採点をした(約3分)。答え合わせ・採点が完了後、赤ペンで○×を記した質問用紙を対象者に再度配布し、誤答について設問毎に解説することで対象者に理解をさせた(約7分)。同時にT.O.実施時の担当者の意識に関するアンケート調査を実施し、翌日も同じ担当をしてもらうように依頼をした。2日目も試合中のT.O.によるミスの調査を同様に行った。その後T.O.実施時の担当者の意識に関するアンケート調査、および今回のルールを理解させた上でT.O.を実施する取り組みについての担当者の評価に関するアンケート調査を実施し、データを収集した。

3. ルールの理解度の調査

T.O.担当者が、T.O.を行うために必要なバスケットボールのルールについて、どの程度理解しているのか、実態を把握するために、三浦(1999)の質問用紙を参考に、2011年度のルール改正に対応して質問項目を作成した(表1)。スコアラールの任務(15問)、タイマーの任務(2問)、24秒タイマーの任務(4問)の計21問に関する設問について、1回目のT.O.終了後に調査を行った。

表1 2011年度ルール改正に伴うテーブル・オフィシャルズのルールの理解度について

この研究は、2011年度のルール改正に伴い、ゲーム中に増加すると思われるテーブル・オフィシャルズによるミスの原因を調査し、実施者のルールの理解度を把握した上で指導し、ルールを理解した翌日のゲームにおいてミスを減少することができるかどうかを検討することを目的としています。お手数ですが、今回担当した役割を、翌日もご担当下さいませようご協力よろしくお願いします。

_____ 大学 _____ 年 (男 ・ 女) 氏名 _____

担当した役割: 24秒オペレーター ・ タイマー ・ スコアラール

< 翌日のゲームも、同じ役割を担当して下さい。 >

次の問題に対して適切なものに を記入して下さい。

1. スロー・インの時、24秒計を動かし始めるタイミングはボールをコート内のプレイヤーが (触れた時 ・ コントロールした時) である。【24秒オペレーター 設問1.】
2. シューターがショットし、リングに当たらなかった。しかしそのチームがボールをコントロールした時、24秒計は (継続 ・ リセット) である。【24秒オペレーター 設問2.】
3. Aチームがオフェンスの際、フロント・コートでファウルを受け、その時の24秒計は残り19秒だった。スロー・インでゲームを再開する場合24秒計は (14 ・ 19) 秒で開始する。【24秒オペレーター 設問3.】
4. 第4ピリオドの残り1分でAチームがバック・コートでボールを運んでいる際にファウルを受け、その時の24秒計は残り17秒だった。ここでAチームがタイム・アウトを取り、スロー・インでゲームを再開する場合、24秒計は (14 ・ 17) 秒で開始する。【24秒オペレーター 設問4.】
5. 第4ピリオド、各延長時限の最後の (2) 3・5) 分間において、フィールド・ゴールが成功した時に、ゲーム・クロックを止める。【タイマー 設問1.】

ゲーム中、自チームが交代を申し出た。この時交代できる状況には を記入して下さい。

1. () 自チームがヴァイオレーション(違反:トラベリング等)をし、相手チームのスロー・インの時 【スコアラール 設問1.】
2. () 相手チームがヴァイオレーションをし、自チームのスロー・インの時 【スコアラール 設問2.】
3. () 第4ピリオドの最後の2分間に自チームが交代を請求した後で、相手チームがフィールド・ゴールで得点した時 【スコアラール 設問3.】
4. () 第4ピリオドの最後の2分間に、自チームが交代を請求した後で、自チームがフィールド・ゴールで得点した時 【スコアラール 設問4.】
5. () 審判がゲームの中断を命じた時 【スコアラール 設問5.】
6. () ファウルの時 【スコアラール 設問6.】

ゲーム中、自チームがチャージド・タイム・アウト(以後タイム・アウト)を申し出た。

タイム・アウトをとれる状況には を記入して下さい。

1. () 自チームがヴァイオレーションをし、相手チームのスロー・インの時 【スコアラール 設問7.】
2. () 相手チームがヴァイオレーションをし、自チームのスロー・インの時 【スコアラール 設問8.】
3. () 相手チームがフィールド・ゴールで得点し、スロー・インするプレイヤーがボールを持つ前に、自チームがタイム・アウトを請求した時 【スコアラール 設問9.】
4. () 自チームがフィールド・ゴールで得点し、スロー・インするプレイヤーがボールを持つ前に、自チームがタイム・アウトを請求した時 【スコアラール 設問10.】
5. () 審判がゲームの中断を命じた時 【スコアラール 設問11.】
6. () ファウルの時 【スコアラール 設問12.】

次の問題に対して適切な数字を記入して下さい。

1. タイム・アウトの回数は、前半 (2) 回、後半 (3) 回、延長各 (1) 回までである。 【スコアラール 設問13.】 【スコアラール 設問14.】 【スコアラール 設問15.】

次の問題に対して適切な項目に を記入して下さい。【タイマー 設問2.】

1. スロー・インの時、ゲーム・クロックを動かし始めるタイミングは、
 - () スロー・インするプレイヤーがボールを手放した時。
 - () ボールがコート内の床、またはプレイヤーに触れた時。
 - () コート内のプレイヤーがボールに触れた時。
 - () コート内のプレイヤーがボールをコントロールした時。

4. 試合中のT.O.のミスの調査

T.O.のミスチェック表を作成し、この用紙を基に、調査担当者が対象試合のミスの現象について、

ミスをした時間、ミスをした担当者(スコアラ、タイマー、24 秒オペレーター、アシスタント・スコアラ)、ミスをした内容、ミスをした要因(ルールの理解不足、集中していなかった等)を記述した(表 2)。これをミスが起こった毎にその都度記入していった。

表 2 テーブル・オフィシャルズのみスチェック表

____月____日 対象試合: _____大学vs_____大学(男・女)				
No	ミスをした時間 (例:1Q残7:24)	担当:24秒オペレーター、タイマー、スコアラ、アシスタントスコアラ	ミスをした内容(詳しく記述すること)	ミスをした原因(例:ルールの理解不足、集中していなかった等)
1	1Q 残7:03	24秒オペレーター	ファールがフロントコートであったが24秒を計っていなかったため、再開時間が分からず適当に設定した。	集中していなかった
2	2Q 残4:55	24秒オペレーター	継続すべきところをリセットしてしまった。	ルールの理解不足
3	4Q 残4:21	タイマー	計り忘れ	集中していなかった
4				
5				

5. 対象者へのアンケート調査について

1 回目の T.O. 終了後、担当した役割についての意欲に関する設問(6 問)、担当の経験についての設問(1 問)を対象者に回答してもらった。2 回目の T.O. 終了後は、上記の内容に加え、今回実施した取り組みであるルールの理解度調査やルールの理解への指導についての対象者による評価についての設問(5 問)を回答してもらった(表 3)。

アンケートはすべて 5 段階評価(5:非常にそう思う 4:そう思う 3:どちらともいえない 2:そう思わない 1:全くそう思わない)で行った。

アンケートの項目別の得点化を行い、担当した役割への意識について(6 問)、担当の経験について(1 問)は、対象者への指導実施前後の比較を行った。今回実施した取り組みであるルールの理解度調査や、ルールの理解への指導についての対象者による評価(5 問)は、取り組み実施後(2 回目の T.O. 終了後)に調査を行い、今回の取り組みが有益であったかどうかを検討した。

表 3 テーブル・オフィシャルズ担当者のアンケート調査票

このアンケートは、テーブル・オフィシャルズの技能の改善を目的に実施するものです。
あなたのアンケートの回答により不利益を被ることはありませんので、率直な回答をお願いします。

_____大学_____年(男・女)氏名_____

_____月_____日 担当した試合: _____大学vs _____大学(男・女)

担当した役割: 24秒オペレーター ・ タイマー ・ スコアラー 今大会で担当した回数:()回目

【記入方法】

・記入の際は、該当する番号に○をつけてください。

【5段階評価】

5: 非常にそう思う 4: そう思う 3: どちらともいえない 2: そう思わない 1: 全くそう思わない

下記の項目の評価について、5段階で評価してください。

担当した役割について	興味を持って取り組んだ。	5	4	3	2	1
	簡単だった。	5	4	3	2	1
	とまどうことがあった。	5	4	3	2	1
	自信を持って実施できた。	5	4	3	2	1
	集中して実施できた。	5	4	3	2	1
	今後もこの役割を担当したい。	5	4	3	2	1
担当の経験について	担当したことがあるので慣れた。	5	4	3	2	1
ルールの理解度調査&指導について(次回の担当後に回答してください。)	担当した役割の技能向上に役立つ内容であった。	5	4	3	2	1
	担当の際、ミスを減らすことができた。	5	4	3	2	1
	プレーにも役立つ内容であった。	5	4	3	2	1
	担当の際、モチベーションを上げるきっかけになった。	5	4	3	2	1
	この取り組みはテーブル・オフィシャルズを担当する際に必要である。	5	4	3	2	1

これらの項目以外で気づいたことや感想を、自由に記述してください。

ご回答ありがとうございました。

6. 統計処理

対象者への T.O.に必要なルールの指導実施前後の意識の変化を比較したアンケート調査結果における平均値の差の検定については、対応のある t 検定を用いた。有意水準は 5%未満とした。

III. 結果及び考察

1. 対象者(T.O.担当者)のルールの理解度

T.O.担当者 14 名のルールの理解度は、設問全 21 項目それぞれの正答率を平均すると 75.2 ±

15.6%だった。正答率が最も高かった者は、95.2%(20問正解)で、最も低かった者は、33.3%(7問正解)だった。インカレへの出場を決める大会で T.O.を担当している者は、正答率 100%の状態である。さもないと、ゲーム中のミスによる中断が出現する可能性や、審判がその都度 T.O.を確認をすることにより、負担が大きくなってしまいう等、ゲームの進行に悪影響を及ぼす可能性が高くなると考えられる。次に、担当する任務別の設問項目について検討していく。

(1)スコアラーの任務

スコアラーの任務に関するルールの理解度について示したものが表 4 である。T.O.担当者のスコアラーの任務に関するルールの理解度は、設問 15 項目それぞれの正答率を平均すると 80.5±15.1%だった。

これらの内、①プレイヤーの交代に関する設問 6 問(設問 1~6)中、正答率が低かった項目は、設問 4.「自チームが交代を請求する際、第 4 ペリオドの残り 2 分間に自チームがフィールド・ゴールで得点した時、交代できるか? ……いいえ。」であり、正答率 50.0%であった。自チームが得点した後、自チームが交代するとなると相手チームにとっては速攻の機会を潰されることになる。それにより得点チャンスを逃してしまう事も少なくない。その為、自チームの交代はできないのである。間違えてしまう理由として、ゲーム・クロックが止まれば全ての選手が交代できるという認識で T.O.を実施している者が多いことが考えられる。

②タイム・アウトに関する設問 9 問(設問 7~15)中、正答率が低かった項目は、設問 15.「タイム・アウトの回数は、延長では何回とれるか? ……1 回。」であり、正答率 50.0%であった。バスケットボールのゲームにおいて延長になるケースがあまりない為、経験不足が大きな原因であると考えられる。

全体として、ヴァイオレーション、ファウル、フィールド・ゴールでの得点の後での交代、タイム・アウトについては、状況の違いで「できる・できない」が混乱している傾向がみられた。ヴァイオレーションをした後のスロー・イン時や、フィールド・ゴール後の状況については、交代、タイム・アウトのどちらもできる状況、どちらもできない状況、タイム・アウトだけできる状況を区別しながら、T.O.担当者に指導することが T.O.技能向上に効果的であると考えられる。

表 4 スコアラーの任務に関するルールの理解度

設 問	正解	正答率(%)
1. 自チームがヴァイオレーションをし、相手チームのスローインの時、交代できるか。	はい	85.7
2. 相手チームがヴァイオレーションをし、自チームのスローインの時、交代できるか。	はい	92.9
3. 自チームが交代を請求する際、第4ピリオドの残り2分間に相手チームがフィールドゴールで得点した時、交代できるか。	はい	71.4
4. 自チームが交代を請求する際、第4ピリオドの残り2分間に自チームがフィールド・ゴールで得点した時、交代できるか。	いいえ	50.0
5. 審判がゲームの中断を命じた時、交代できるか。	はい	78.6
6. ファウルの時、交代できるか。	はい	92.9
7. 自チームがタイムアウトを申し出た。自チームがヴァイオレーションをし、相手チームのスロー・インの時、タイムアウトをとれるか。	はい	64.3
8. 相手チームがヴァイオレーションをし、自チームのスロー・インの時、タイムアウトをとれるか。	はい	100.0
9. 相手チームがフィールド・ゴールで得点し、スロー・インするプレイヤーがボールを持つ前に、自チームがタイム・アウトを請求した時、タイムアウトをとれるか。	はい	85.7
10. 自チームがフィールド・ゴールで得点し、スロー・インするプレイヤーがボールを持つ前に、自チームがタイム・アウトを請求した時、タイムアウトをとれるか。	いいえ	92.9
11. 審判がゲームの中断を命じた時、タイムアウトをとれるか。	はい	78.6
12. ファウルの時、タイムアウトをとれるか。	はい	92.9
13. タイムアウトの回数は前半は何回とれるか。	2回	92.9
14. タイムアウトの回数は後半は何回とれるか。	3回	78.6
15. タイムアウトの回数は延長は何回とれるか。	1回	50.0

(2)タイマーの任務

タイマーの任務に関するルールの理解度について示したものが表 5 である。T.O.担当者のタイマーの任務に関するルールの理解度は、設問 2 項目それぞれの正答率を平均すると $57.2 \pm 14.3\%$ だった。

これらの内、正答率が低かった項目は、設問 2.「スロー・インの時、ゲーム・クロックを動かし始めるタイミングは、コート内のプレイヤーがボールに触れた時である。・・・はい。」であり、正答率 42.9% と 5 割未満であった。本研究における取り組み前の試合中のミスの実態調査では、タイマー担当者がコート内のプレイヤーがボールをコントロール(保持)した時にゲーム・クロックを計り始めていた。このため、ゲームが中断する直接的な要因とはならないものの、試合時間が本来よりも長引いていた。タイマーは、ゲームを進行する上で重要な任務であり、バスケットボール競技において、残り1秒で勝敗が決定することもある為、計り始めや、止めるタイミングを正確に把握しておくことが必要であると考えられる。

表5 タイマーの任務に関するルールの理解度

設 問	正解	正答率(%)
1. 第4ピリオド、各延長時限の残り何分間において、フィールド・ゴール成功時にゲームクロックを止めるのか。	2分	71.4
2. スローインの時、ゲームクロックを動かし始めるタイミングはコート内プレイヤーがボールに触れた時である。	はい	42.9

(3) 24 秒オペレーターの仕事

24 秒オペレーターの仕事に関するルールの理解度について示したものが表 6 である。T.O.担当者の 24 秒オペレーターの仕事に関するルールの理解度は、設問 4 項目それぞれの正答率を平均すると 64.3±18.2%だった。

表 6 24秒オペレーターに関するルールの理解度

設 問	正解	正答率(%)
1. スローインの際24秒計を動かし始めるタイミングはコート内のプレイヤーが触れたときである。	はい	71.4
2. ショットしたボールがリングに触れなかったが、ショットしたチームがボールを再び保持した場合24秒計は継続して計る。	はい	85.7
3. オフェンス側がフロントコートでファウルを受け、その時の24秒計の表示は19秒であった。スローインでゲームを再開する場合、24秒は何秒で再開するか。	19秒	64.3
4. 第4ピリオド残り1分でオフェンス側がバックコートでファウルを受け、その時の24秒計の表示は17秒であった。オフェンス側がタイムアウトを取り、スローインでゲームを再開する場合、24秒計は何秒で再開するか。	17秒	35.7

これらの内、設問 3、4 が今回(2011 年)のルール改正で変更になった内容である(日本バスケットボール協会, 2011a)。

設問 3. 「Aチームがオフェンスの際、フロント・コートでファウルを受け、その時の 24 秒計は残り 19 秒だった。スロー・インでゲームを再開する場合 24 秒計は何秒で計り始めるか?・・・19 秒。」という設問項目の正答率は 64.3%であった。これは、今回のルール改正から適用されたものであるため、やや正答率の低い結果となった。今まではファウルをされた場合は、コートのどこにしようと全て 24 秒計をリセットし、あらたに 24 秒を計り始めていた。しかし、今回のルール改正では、「そのチームのバック・コートからのアウト・オブ・バウンズからのスロー・インでゲームを再開する時、あるいはフリースローが与えられる時は、24 秒を止めてリセットする。」(日本バスケットボール協会, 2011a, p.85)と記しており、また、「そのチームのフロント・コートのアウト・オブ・バウンズからのスロー・インでゲームを再開する時は、24 秒計が表示している残りの秒数が 14 秒以上である時には 24 秒計は止めるがリセットしない、13 秒以下である時には 24 秒計は 14 秒にリセットする。」(日本バスケットボール協会, 2011a, p.85)と記されている為、今回の設問は、「フロント・コート」でファウルがあり、24 秒計は、「19 秒」と記してあるので、24 秒計が 19 秒である為、リセットせず 19 秒でゲームを再開するということになる。

設問 4. 「第4ピリオドの残り1分でAチームがバック・コートでボールを運んでいる際にファウルを受けた時の 24 秒計は残り 17 秒だった。ここでAチームがタイム・アウトを取り、スロー・インでゲーム

を再開する場合、24 秒計は何秒で再開するか?・・・17 秒。」という設問項目の正答率は 35.7%と、設問 15 項目中、最も正答率が低い結果であった。今回のルール改正から、「第 4 ペリオド、各延長時限の最後の 2 分間にバック・コートのアウト・オブ・バウンズからのスロー・インが与えられるチームにタイム・アウトが認められた後のスロー・インはそのチームのフロント・コートのスロー・イン・ラインのアウト・オブ・バウンズから行うことになった。」(日本バスケットボール協会, 2011a, p.32)と記されている為、この場合はファウルを受けた場所はバック・コートであるが、タイム・アウトを取り、次にゲームが再開される場所がフロント・コートになるので、24 秒計はリセットせず、17 秒で再開する。このように 2 つの新しいルールが組み合わさっているために、先述の設問 3.のルールを理解しているだけでは不十分であり、この時点ではこのルールの理解の浸透がなされていない状況が明らかになった。

24 秒オペレーターのミスが審判が発見し、訂正する作業が続発すれば、負担が増えてしまい、本来審判が行うプレーの判定面で集中ができなくなる等の悪影響が出ると考えられる。

2. ルールの指導実施前後の試合中のミス回数比較

対象試合(4 試合×2 日の計 8 試合)における、T.O.担当者へのルールの指導実施前後の試合中のミス回数を比較したものが図 2 である。

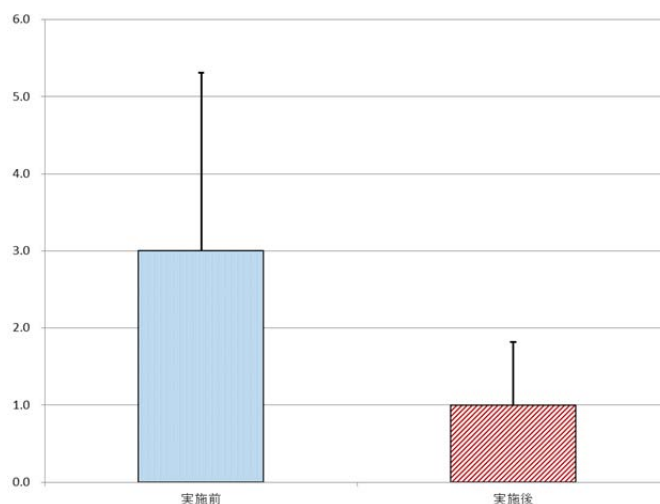


図 2 テーブル・オフィシャルズへの指導実施前後の試合中のミス回数比較

指導実施前のミスの回数は 3.0 ± 2.3 回であった。本来 T.O.はゲームを補助する役割であり、プレイヤーやコーチに影響を与えてはならないものである。しかし、1 試合の中で 3 度もミスをしてしまうとプレイヤーやコーチだけでなく、ゲームの進行自体に影響を与える可能性がある。よってこの 3.0 ± 2.3 回という数値はゲームの進行を行う上で非常に悪い数値だと考えられる。

一方、指導実施後のミスの回数は 1.0 ± 0.8 回と減少した。ミスは無くなるのが理想だが、指導を実施することでここまでミスの回数が減少したということはこの指導に効果があったと考えられる。

また、指導実施前後のゲームにおいて T.O.担当者がミスをした原因は、以下の 2 つに分類された。

ルール理解不足

集中の欠如

指導実施前における T.O. 担当者の①ルールの理解不足によるミスは 0.8 ± 1.0 回 (25.0%)、②集中の欠如によるミスは 2.3 ± 1.5 回 (75.0%) だった。

その後、T.O. 担当者にルールの指導を実施した後の試合において、①ルールの理解不足によるミスは 0 回 (0%)、②集中の欠如によるミスは 1.0 ± 0.8 回 (100%) にそれぞれ減少した。

本研究では、T.O. 担当者に T.O. を実施する為に必要なルールの理解をしてもらうよう、指導を実践したのであるが、①ルールの理解不足によるミスが指導実施前 0.8 ± 1.0 回から、指導実施後 0 回へと減少し、効果が表れた。

これと並行して、②集中の欠如によるミスについても、指導実施前 2.3 ± 1.5 回から、指導実施後 1.0 ± 0.8 回と減少した。調査・指導を実施したことで、T.O. 担当者が試合の運営における T.O. の重要性を再認識したのではないかと考えられる。

なお、調査を実施した 8 試合における、試合中での T.O. 担当者のミスの 2 つの要因別の具体的な内容は、以下に述べる通りである (計 16 回)。今回調査した T.O. 担当者のミスの内、指導実施前の①ルールの理解不足によるミスについては、すべて 24 秒オペレーターのミスであることが明らかになった。

① ルールの理解不足 (3 回)

- ・ A チームがオフェンスの際、フロント・コートでファールを受け、その時の 24 秒計は 20 秒 (17 秒) だった。この場合 24 秒計は継続して計るべきところをリセットしてしまい、審判から注意をうけた (2 回)。
- ・ A チームがオフェンスの際、フロント・コートでファールを受け、その時の 24 秒計は 4 秒であった。この場合 24 秒計は 14 秒にリセットするべきであるが、4 秒のまま継続して計ってしまった。

② 集中の欠如 (13 回)

- ・ ボールがライブになっているのにも関わらず、タイマー、24 秒計のいずれかを計り始めていなかった。8 回 (介入前 5 回, 介入後 3 回)
- ・ ボールがアウト・オブ・バウンズになったのにも関わらず、タイマー、24 秒計のいずれかを止め忘れており、周囲の人に指摘されて気付いた。2 回 (介入前 2 回)
- ・ ボールがライブになっているのにも関わらず、タイマーを計り始めておらず、その後ファールがあり、適当に秒数を設定した。(介入前 1 回)
- ・ フィールド・ゴールが認められたのにも関わらず、得点を加算しなかった。(介入後 1 回)
- ・ ポゼッションアローを変え忘れ、審判に注意を受けた。(介入前 1 回)

3. アンケート調査の評価

(1) T.O. 担当者への指導実施前後の意識の比較

T.O. 担当者へのルールの指導実施前後の意識の変化を比較したものが図 3 である。

設問 7 項目中、有意差が認められた項目について述べる。

設問 1「興味を持って取り組んだ」は、1 回目の結果が 3.6 ± 1.2 点であった。2 回目の結果は 4.5 ± 0.8 点であり、有意差が認められた ($p < 0.01$)。

今回の取り組みを行い「興味を持てた」という結果になったことは、ルールの指導を実施したこと

で、2回目のT.O.で好影響があったと考えられる。また、今後のT.O.の技能の更なる向上に有益であると考えられる。

設問2「簡単だった」は、1回目の結果が3.4±1.0点であった。2回目の結果は3.9±0.9点であり、有意差が認められた(p<0.05)。ルールを十分に理解した上でT.O.を行えばさほど難しいと思うことなく実施できたのではないかと考えられる。

設問4「自信を持って実施できた」は、1回目の結果が3.6±1.1点であった。2回目の結果が4.4±1.0点であり、有意差が認められた(p<0.05)。1回目のT.O.ではルールを十分に理解していない部分もあった為、自信を持てなかったが、指導を実施しルールの理解が十分にできた後は、迷いもなく自信をもって実施できたのではないかと考えられる。

設問6「今後もこの役割を担当したい」は、1回目の結果が3.8±1.2点であった。2回目の結果が4.5±0.8点であり、有意差が認められた(p<0.05)。今回の指導により、ルールを理解し、ミスも減少させることができたことで自信が持てたのではないかと考えられる。

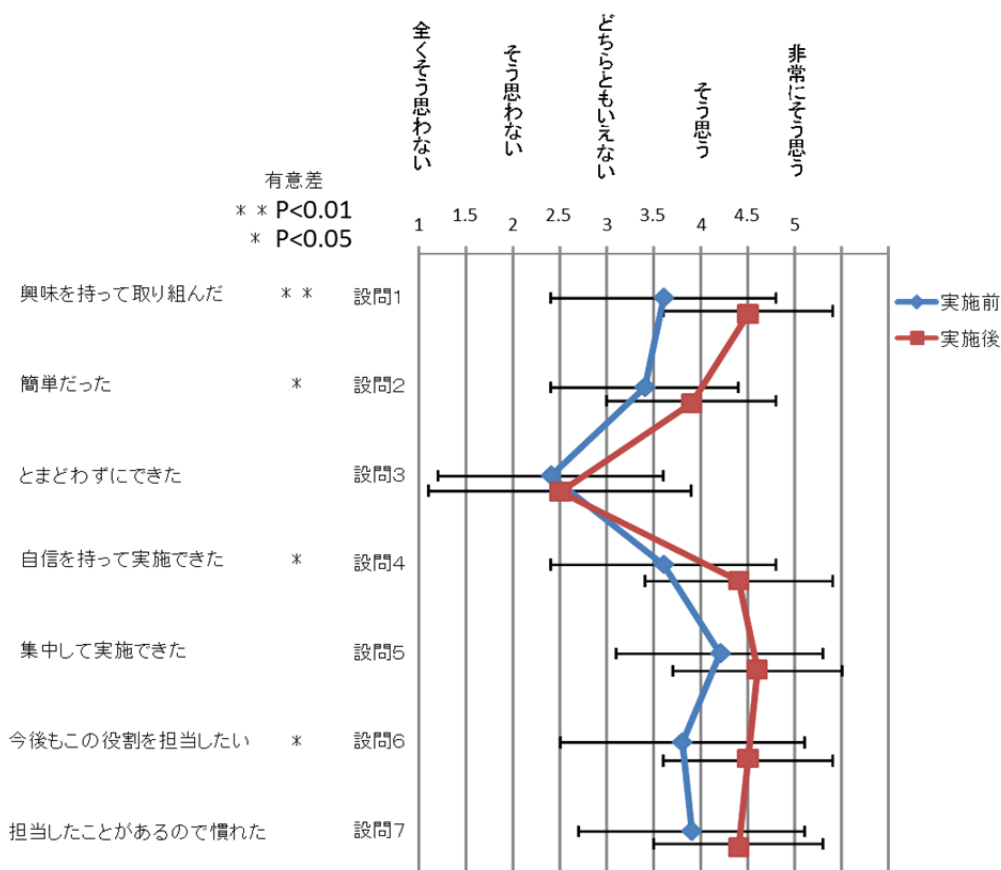


図3 テーブル・オフィシャルズ担当者への指導実施前後の意識の比較

(2) T.O.に必要なルールの指導実施後の、T.O.担当者によるこの取り組みへの評価

今回実施した取り組みであるルールの理解度調査や、ルールの理解への指導についてのT.O.担当者による評価を示したものが図4である。

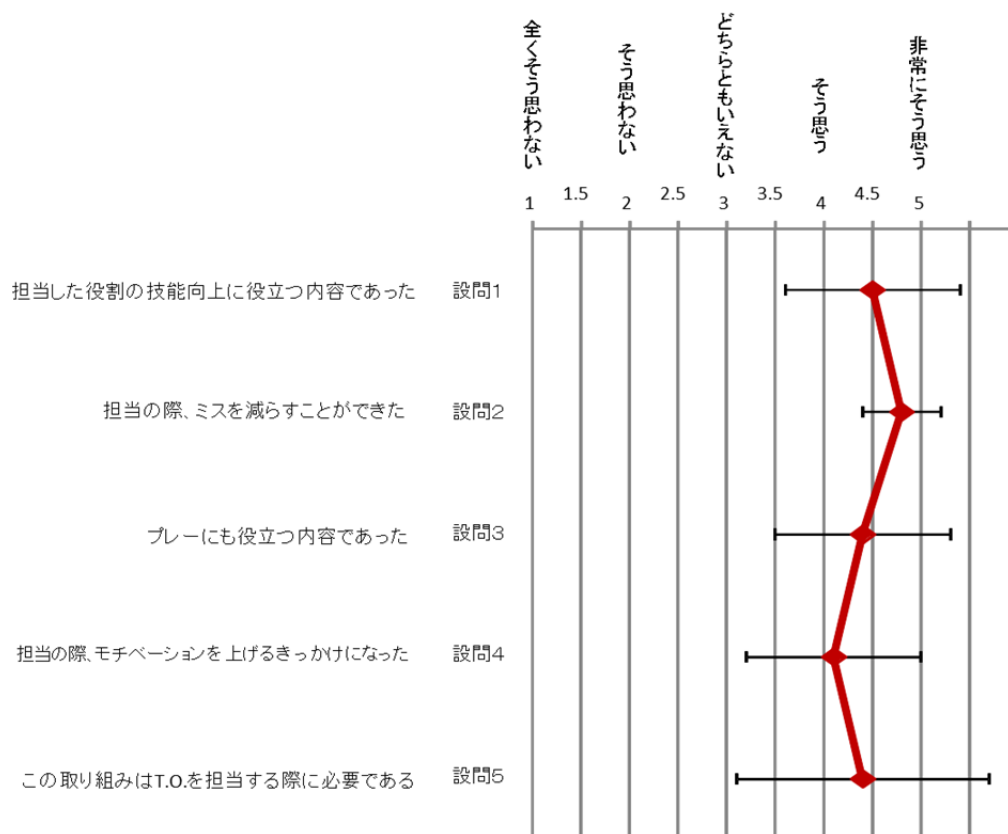


図4 テーブル・オフィシャルズ担当者への指導実施後のこの取り組みへの担当者による評価

設問 1「担当した役割の技能向上に役立つ内容であった」への評価は、 4.5 ± 0.9 点であった。T.O.担当者にとって、T.O.に必要なルールを理解することは、自身が担当した役割の技能を向上させ、実践する上で有益であったと考えていると考えられる。

設問 2「担当の際、ミスが減らすことができた」への評価は、 4.8 ± 0.4 点であった。設問 5 項目の中で一番評価が高い項目だった。2 回目のミスの調査で、ルールの理解不足によるミスが 0 回に減少した大きな要因であると考えられる。

設問 3「プレーに役立つ内容であった」への評価は、 4.4 ± 0.9 点であった。T.O.担当者にゲームでの実施に必要なルールを理解させる取り組みは、彼らがプレーする際にも有益な内容でもありとされる。

設問 4「担当の際、モチベーションを上げるきっかけになった」への評価は、 4.1 ± 0.9 点であった。他の4項目と比較して最も低い得点だったものの、5 点満点の 4 点以上であった。モチベーションが上がったことも、ゲーム中の T.O.のミスに関し、「集中の欠如」による回数が減少する要因につながったと考えられる。

設問 5「この取り組みは T.O.を担当する際に必要である」への評価は 4.4 ± 1.3 点であった。T.O.を担当する際に必要なルールを理解した上でゲームに臨むという今回の取り組みは、ゲームでの T.O.を実施するに当たって重要であると考えられる。

IV. 実践への応用と今後の課題

今回本研究で取り組んだ T.O.技能向上のためのルールを理解度を把握した上での指導は、T.O.担当者がルールを理解してT.O.を実践するだけにとどまらず、T.O.へのモチベーションを高めることで、試合中の T.O.担当者によるミスを減少することに結び付いたと考えられる。

今後も、T.O.を所属チームの部員が持ち回りで担当するシステムは、予算面、人員面で変更することはできないと考えられる。そこで、T.O.担当者に試合開始 30 分前(通常は 10 分前)に来てもらい、T.O.を担当する際に必要なルールについての質問用紙を配布して解答してもらい、答え合わせと解説を学連の担当者(当該試合のコミッショナー)が実施することで、T.O.のミスが減少し、これに伴うゲームへの悪影響を減少できると考える。その際、本研究の設問を吟味し、審判の意見も取り入れることで、短時間で実践に役立つ項目に修正することが課題となるであろう。

文 献

- ・ 阿部哲也, 木葉一総(2011)詳解バスケットボールのルールと審判法. 大修館書店:東京. p.220.
- ・ 三浦健(1999)中学校バスケットボール部員におけるテーブル・オフィシャルズに必要なルールの理解度の傾向について. 鹿屋体育大学大学術研究紀要 22:33-45.
- ・ 三浦祥子, 三浦健(1998)中学校バスケットボール部員におけるテーブル・オフィシャルズに必要なルールの理解度の地域別比較. 四国大学紀要人文社会科学編 10:101-107.
- ・ 清水利佳(2009)バスケットボールにおけるルール変更に伴う現状と課題. 鈴鹿国際大学紀要 Campana15:65-76.
- ・ (財)日本バスケットボール協会(2011a)2011～バスケットボール競技規則. 財団法人日本バスケットボール協会:東京.
- ・ (財)日本バスケットボール協会(2011b)2011～オフィシャルズ・マニュアル. 財団法人日本バスケットボール協会:東京.